

■ 「効果の見える治水事業」
愛媛県 (二) 僧都川水系 僧都川
総合流域防災事業

愛媛県南予地方局 愛南土木事務所長 津田 哲



二級河川僧都(そうづ)川は、南宇和郡愛南町僧都に源流を發し、山間部を南下し、御荘平野を貫通して御荘湾にそそぐ、流域面積 71.1 km²、延長 17.4km の河川です。

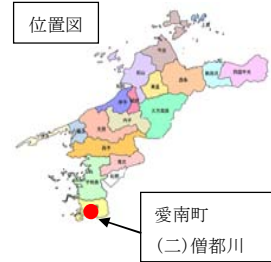
僧都川は、源流から下流、約 12km が溪谷となっており、小規模ながら溪谷美を味わうことができ、特に晩春から初夏にかけての新緑の時期には手頃なハイキングコースとなります。また、下流の平地部は南宇和郡有数の穀倉地帯で、僧都川の恩恵を存分に受けており、住民の生活にとって必要不可欠な河川であります。

その反面、僧都川下流域では、昭和 18 年 7 月の氾濫など、昔から洪水の被害を頻繁に受けており、出水のたびに人家や農地が危険にさらされていました。

このため、愛媛県では、昭和 28 年から昭和 50 年にかけて改修工事を実施し、現在の河川堤防を完成させました。

この河川改修工事により、大規模な氾濫はなくなりましたが、一部区間については未だ浸水被害の危険性があるため、流下能力向上対策として、平成 25 年度より総合流域防災事業による河道掘削を実施しております。

今後も引き続き関係機関や地元住民の協力をいただきながら事業を推進し、治水安全度の向上に努めたいと考えております。



「効果の見える治水事業」
愛南町における水害対策

愛南町長 清水 雅文



＜愛南町の概要＞

本町は、愛媛県の南端に位置し、南宇和郡の旧 5 町村（内海村、御荘町、城辺町、一本松町、西海町）が合併して誕生しました。

南は黒潮踊る太平洋を望み、西は豊後水道に面している自然環境に恵まれた地域です。北部には四国山脈から分岐した一本松地域の篠山支脈があり、ここから発する僧都川の流域に平野部が開け、この平野部に御荘地域、城辺地域の市街地が形成されています。

また、内海地域、御荘地域、城辺地域及び西海地域の海岸部は「足摺宇和海国立公園」に面し、自然豊かな恵みを受け水産業や観光事業に恩恵を受けています。

＜水害の記録＞

さて、本町では、平成 25 年度に、「愛南町の災害体験談」、平成 26 年度には「愛南町総合防災マップ」を刊行しました。僧都川に関連する災害体験談を見てみますと、昭和 18 年に僧都川の堤防が決壊し、現在の愛南町庁舎がある北裡地区（旧城辺町）が全滅したという記録が記載されています。

幸いにもそれ以降、大規模な水害は起こっていないようですが、梅雨時期や台風シーズンの大雨時には、氾濫寸前まで水位が上昇していることもあります。

普段は、緩やかな流れで町民の散歩や憩いの場として本町の象徴的な存在であり、山からの栄養分を御荘湾へ運ぶことにより、本町の基幹産業である水産業にも大きな恵みを与えてくれる僧都川ですが、出水期には町民の生命を脅かす存在にもなります。

＜防災への取り組み＞

防災対策は、ハード対策とソフト対策のバランスの取れた事業の推進が大切です。

現在、僧都川において、総合流域防災事業により河道掘削が実施されており、治水機能の向上が図られております。また、平成 31 年度には、水位周知河川に指定される予定と聞いております。

今後とも、国・県のご指導をいただきながら、水害から町民の生命・財産を守り、安心で安全なまちづくりに取り組んで参りたいと考えています。

